講師のプロフィール

八谷さん　太田さん　川村さん

太田（おおた）　満（みつる）

1967年6月北海道赤平市生まれ。

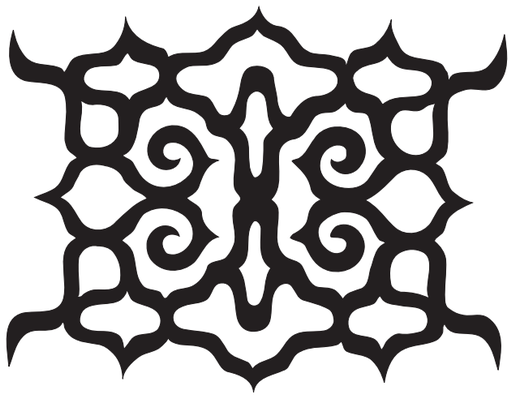
天理大学外国語学部ロシア語学科を卒業。ロシア語・ルーマニア語の法廷通訳を経験。

現在、旭川アイヌ語教室の講師をはじめ、（財）アイヌ文化振興・研究推進機構が実施している指導者育成事業、親と子のためのアイヌ語講座（旭川）の講師として、アイヌ語の指導にあたっている。

協力者の紹介

川村（かわむら）　久恵（ひさえ）　川村カ子トアイヌ記念館副館長。旭川親子アイヌ語教室代表。

八谷（はちや）　麻衣（まい）　現在、アイヌ語を勉強中。19年度アイヌ語弁論大会弁論部門で最優秀賞を受賞。



作　川村 久恵

【このテキストのアイヌ語と表記の仕方について】

現在のところアイヌ語には共通語というものはなく、それぞれの地域でそれぞれの方言が学ばれています。今年度、このテキストでは石狩方言の会話に必要な表現と文法について学習します。

アイヌ語ラジオ講座のスケジュール表

月	日	LESSON Kampinuye	テーマ	ページ
1月	4日	40	音節とアクセント	6
	11日	41	場所名詞と位置名詞	8
	18日	42	アイヌ文学 ― 神 謡（1）	10
	25日	43	アイヌ文学 ― 神 謡（2）	12
2月	1日	44	アイヌ文学 ― 神 謡（3）	14
	8日	45	アイヌ文学 ― 神 謡（4）	16
	15日	46	寒い、暑い の表現	18
	22日	47	アイヌ語の文化的背景について（2）	20
3月	1日	48	連他動詞のいろいろ	22
	8日	49	正式な挨拶の言葉（1）	24
	15日	50	正式な挨拶の言葉（2）	26
	22日	51	神への祈り言葉（2）	28
	29日	52	接頭辞、接尾辞と簡単な造語法	30

Lesson40

Kampinuye 40（Tuhot）音節とアクセント

カンピヌイエ　　ドホッ

1．アイヌ語のアクセントについて

例えば、ロシア語では「苦しみ」と「粉」は文字の上では　м у к а　ですが、

「苦しみ」は　　м у́ к а

「粉」は　　м у к а́

とアクセントで区別します。この際「苦しみ」は最初の音節が強く、次が弱く発音されているのに対し、「粉」は最初の音節が弱く、次が強く発音されます。こういう音の強弱によるアクセントを「強勢アクセント」と言います。英語のアクセントもこの「強勢アクセント」です。

それに対し日本語の標準語では「箸」と「橋」のように同じ音であっても

「箸」は　　は し

「橋」は　　は し

といった具合に、アクセントのある音節（下線を引いたところ）を高く発音し、その位置によって区別を行います。こういうアクセントを「高低アクセント」と言います。

アイヌ語のアクセントは日本語同様に「高低アクセント」です。

日本語にもアクセントが重要ではない、つまりアクセントの位置による意味の区別がない方言があるように、アイヌ語にもアクセントが重要ではない方言もあります。しかし、今皆さんが学んでいる石狩方言はアクセントが重要な方言です。例えば

n e:a n　　ネ:ア ン　　「その」

n e:a n　　ネ:ア ン　　「どの」

のように、アクセントの位置によって意味が区別される言葉があります。ですから単語を覚える際はアクセントもしっかり覚えなければいけません。しかし、アクセントの位置については、大部分の言葉が規則的なものなので、それ程難しくはありません。これについては音節の説明の後に述べます。

2．音節について

音節とは一個の母音、あるいはその母音の前後に幾つかの子音を伴う音声のまとまりです。アイヌ語で言えば

①**母音**（V）	a	「座る」
②**子音＋母音**（CV）	ta	「～を掘って採る」
③**母音＋子音**（VC）	at	「紐」
④**子音＋母音＋子音**（CVC）	tat	「樺の木の皮」

があります。この中で①と②を「開音節」、③と④を「閉音節」と呼びます。

※注　Vは英語の　vowel、Cは同じく　consonant　の頭文字をとった記号で、それぞれ母音、子音を表して用いられます。

3. アイヌ語のアクセントの位置

アイヌ語ではこれまで学習してきた単語の中で、pe「もの」、hi「事、時」などの形式名詞、ta「～に」、wa「～から」などといった後置詞、wa「～（し）て」、korka「～（だ）けれど」といった接続助詞、ka「～か、～も」という副助詞を除くほぼ全てにアクセントがあります。

2の音節の説明で例として挙げた単語のように、音節が一つの単語はそこ以外にアクセントがあり得ませんからすぐ分かります。それでは二音節以上の単語はどうなるのかというと

① 第一音節が開音節の場合、アクセントは次のように第二音節に置かれます。

（二音節）	ka―muy	カムィ	「神」
（三音節）	i―rus―ka	イルシカ	「怒る」
（四音節）	u―e―yam―no	ウエヤムノ	「互いに仲良く」

② 第一音節が閉音節の場合、アクセントは次のように第一音節に置かれます。

（二音節）	ay―nu	アィヌ	「人間」
（三音節）	hem―pak―pe	ヘンパクペ	「幾つ」

のようになります。

これまで学習したもので身体部位など概念形が一音節の単語は、

例えば、tek　テク　「手」の所属形は　tek　に　e　が付く形なので、アクセントは　teke　テケ　となりそうなものですが、実際には　te―ke　と音節を分けて、teke　テケ　と発音されますので、注意が必要です。

その他にもよく使う言葉として、nea　ネア　「その」、nean　ネアン　「その」、numan　ヌマン　「昨日」、hure　フレ　「赤い」、kera　ケラ　「味」など①、②の法則に外れるものがありますが、これらは一つ一つ覚えねばなりません。

4．人称とアクセントの関係

これまで　ku＝「私は、私の」、en＝「私に、私を」など人称を表す接辞が 名詞や動詞に付くことを学んできました。3でアクセントの位置について学びましたが、人称接辞が付くことによって、アクセントの位置が変わります。つまり

teke	テケ	「彼の手」	ku＝teke	クテケ	「私の手」
maka	マカ	「彼が～を開ける」	ku＝maka	クマカ	「私が開ける」

と、アクセントの位置が一つ前にずれているのに気付くでしょう。

但し、人称接辞　an＝　と　es＝　に限っては

an＝teke	アンテケ		es＝teke	エシテケ
an＝maka	アンマカ		es＝maka	エシマカ

のようにアクセントの移動は起こさないので覚えて下さい。

MEMO

Lesson41

Kampinuye 41（Sinep ikasma tuhot）場所名詞と位置名詞

カンピヌイエ　　シネプ イカシマ トホッ

1．文法的な場所の概念の復習

Kampinuye14で既に学びましたが、重要な事なので復習してみましょう。cise　などの普通名詞（これまでテキスト中では単に「名詞」と表記）の後に、ta「～で」、wa「～から」といった後置詞を用いる場合、
cise otta（＞ orta）「家で」、cise orwa 「家から」
のように必ず　or　という言葉と共に用いねばならないのに対し、「文法的な場所の概念」を持つある種の名詞は、それを用いなくても良いという決まりがあります。

このある種の名詞とは、①場所名詞、②場所の名詞、③位置名詞 と呼ばれるものです。例えば、場所名詞の　kotan「村」は　kotan orwa　の他、kotan wa　という表現が可能です。

次に、これらの三つの名詞について学んでいきましょう。

2．場所名詞について

場所名詞の特徴を挙げると
①後置詞と用いる場合　or　を用いなくても良い。
（例） kotan wa 「村から」
②普通名詞と同様に所属形があり、人称を表す接辞も主格と同形である。
（例） ku=kotanu 「私の村」
となります。これは後に述べる位置名詞との違いを考える上で、とても重要ですからしっかり覚えて下さい。場所名詞としてよく使われるものには次のようなのがあります。

アイヌ語		日本語訳
annoski	アンノシキ	真夜中
kim	キム	（生活圏としての）山
mosir	モシリ	島、大地、国
pa	パ	年
rep	レプ	沖
so	ソ	座席
to	ト	日
tonoski	トノシキ	真昼

特に　annoski　などのように、普通名詞や場所名詞と この後の4で説明する位置名詞によって作られた合成語は、多くの場合に場所名詞になります。

3．場所の名詞について

場所の名詞とは、ある条件下で場所の概念を持つ普通名詞と固有名詞、一部の代名詞と一部の名詞句などを指す便宜上の呼称で、品詞分類上の名称ではありません。この内訳は以下の通りです。
①普通名詞の所属形
（例）概念形の　cise　を用いて「家で」という場合、cise　otta　としか言えないのに対し、所属形の　ku=cise　を用いて「私の家で」という場合、ku=cise otta　も　ku=cise ta　も可能。
②固有名詞の中で誰もが分かるような地名
（例）Satporo ene 「札幌へ」
③一部の代名詞
（例）te 「ここ」、taan 「そこ」、toan 「あそこ」など
④形式名詞　hi 「時」、「所」によって形成される名詞句
（例）ku=pon hi ta 「私が小さい時に」

4．位置名詞について

上下前後など位置や方向といった空間的関係、あるいは時間的関係を表す場所の概念を持つ名詞の一種に位置名詞があります。

先の１で触れた　or　やこれまで学んだ　oske、teksam　がこれに当たります。名詞とはいうものの、先に説明した普通名詞や場所名詞とは大きな違いがあります。

次に、sam 「～の側」という語を用いて説明します。
（例）
①「私の村に」 ku=kotanu ta
②「私の側に」 en=sam ta　あるいは　en=sama ta　あるいは　en=samake ta

上の例の訳文は共に「私の」となっています。共に人称接辞が用いられていますが、①では主格と同形の所有格が用いられているのに対し、②では「私に、私を」といった意味の目的格が用いられています。**このように位置名詞は概念形、所属形の区別を持たず、あたかも他動詞のように目的格をとるのです。**ところで②には　sam、sama、samake　の三つの形があります。古くは　sam　を概念形、sama や　samake　を所属形としていましたが、（例）の対比からもこの誤りは明らかで、今では　sam　を「短形」、sama や　samake　を「長形」と呼ぶのが一般的です。この短形と長形は用法に違いがあります。例えば、「泉の側に石がある。」という文を考えて見ましょう。この場合、
Simpuy sam ta suma an．といった短形の他に
Simpuy sama ta suma an．
Simpuy samake ta suma an．
と 長形の使用も可能です。
しかし、「泉の側に石がある。その側に一本の榛の木が生えている。」の場合、
Simpuy sam（sama、samake）ta suma an．の後には
Sama ta sine kene as kane an．
Samake ta sine kene as kane an．
と 長形のみが可能です。つまり短形は単独で用いる事ができず、長形は単独で用いる事ができるのです。

5．位置名詞のいろいろ

位置名詞が表す位置関係は日本語とは異なる細かい区別があり、とても複雑です。
以下、主なものを解説します。
①「上」と「下」

短　形	長　形	日本語訳
ka	kasi、　kasike	「～の接触した上」
enka	enkasi、enkasike	「～の離れた上」
kurka	kurkasi、kurkasike	「～の広範囲の上、～の上一面」
tuyka	tuykasi、tuykasike	「～のすぐ上」

※ この tuy　は「腸、内臓」という意味ですが、こういった身体部位名と位置名詞が結びついて派生した位置名詞があります。 tap ー ka（肩・の上）「～の頂上」もそうですが、どうしてその意味になるのか日本語の思考では不可解なものも少なくありません。
短形　corpok　長形　corpoki、corpokike 「～の下」
短形　tuypok　長形　tuypoki　　「～の下側、～の裏」
（ちなみに敷物や紙などの「表」は sirka、「裏」は sirpok　と言い、場所名詞です。）

②「前」と「後ろ」

短　形	長　形	日本語訳
kotca	kotcake	「（動いていない）～の前」
etok	etoko	「（動いている）～の前」
osmak	osmake	「（動いていない）～の後」
oka	okake	「（動いている）～の後」

例えば、 en=kotca　と　en=etok　は共に「私の前」ではあるけれど、en=kotca　の時の私は動いておらず、en=etok の私は動いている事になります。

Lesson42

Kampinuye 42（Tup ikasma tuhot）アイヌ文学 ― 神 謡(1)

カンピヌイエ　ドプ イカシマ ドホッ

その１　砂沢クラ媼伝承　「オイナカムィの妹神が自らを物語る」

折節（sakehe）は ○記号１つにつき　hao

○○○○○　eurorpe
ハオーハオーハオーハオーハオ　エウローロペ

○○○○　kantokotor ta
カントコトッタ　天の上で

○○○　ci=kamuy-hampe
チカムィハンベ　神の父さん

○○　ci=kamuy-totto
チカムィトット　神の母さん

○○○　ci=kamuy-yupo
チカムィユポ　神の兄さん

○○　koetunankar
コエドナンカラ　と一緒に

○○○　okay=as ki kor
オカヤシキコロ　私が暮していると

○○　sinean to ta
シネアントタ　ある日

○○○　yaykonisnu=as kusu
ヤィコニシヌアシクス　退屈なので

○○　aynumosir
アィヌモシリ　人間界

○○○　ci=kohosari
チコホサリ　を振り向き

○○　inkar=as awa
インカラサワ　見ると

○○○　aynumosir
アィヌモシリ　人間界

○○　kotan un hi
コタンウニ　村のある所は

○○○　kotan pake
コタンパケ　村の上手

○○　kotan kese
コタンケセ　村の下手が

○○○　homar kane
ホマラカネ　霞み

○○　inkar=as kusu
インカラアシクス　私は目にしたので

○○○　ci=kar wa an pe
チカラワアンペ　作ってあった物

○○　ci=utomciwre
チウトムチゥレ　を身に纏い

○○○　soy wa samma
ソィワサンマ　外へと

○○　nupuri tapka
ヌプリタプカ　山の上

○○　ci=kosiraye
チコシライェ　に赴き

○○　tu otapkar ru
トオタプカンル　二つの舞い姿

○○○　re otapkar ru
レオタプカンル　三つの舞い姿

○　iki kor
イキコロ　すると

○○　ci=teke etoko wa
チテケエトコワ　私の手が進む先に

○○○　hopuni rera
ホプニレラ　立つ風が

○○○○　mosirso kurka
モシリソクルカ　大地の上一面

○○　cipatupatu
チパトパト　パッパッと飛散させ

単　語

アイヌ語		品詞	日本語訳
awa	アワ	接続助詞	～（する）と
aynumosir	アィヌモシリ	場所名詞	人間界
cipatupatu	チパトパト	他動詞（中相）	～がパッパッと飛散させられる
etoko	エトコ	位置名詞（長形）	～の進む先（注：短形は etok）
homar	ホマラ	自動詞	ぼんやり霞む
hopuni	ホプニ	自動詞	飛び立つ
iki kor	イキ　コロ		そうすると
kamuy	カムィ	名詞	神
kantokotor	カントコトロ	場所名詞	天（の見える面）
kese	ケセ	位置名詞（長形）	～の下手（注：短形は kes）
koetunankar	コエドナンカラ	後置副詞	～と一緒に
kohosari	コホサリ	他動詞	～を振り向く
kosiraye	コシライェ	他動詞	～の方へ寄る、～に自分を押しやる
kurka	クルカ	位置名詞（短形）	～の上面一帯（注：長形は kurkasi、kurkasike）
mosirso	モシリソ	場所名詞	地表
nupuri	ヌプリ	名詞	（地理的概念の）山
otapkar	オタプカラ	自動詞	（尻を振って?）舞う
pake	パケ	位置名詞（長形）	～の上手（注：短形は pa）
rera	レラ	名詞	風
ru	ル	形式名詞	姿
samma	サンマ	虚辞	音節を整えるため単語の後ろに置かれる（注：多くの場合 sama の形が現れる）
sinean	シネアン	連体詞	ある～（sinean to ta　ある日）
tapka	タプカ	位置名詞	～の頂上
un	ウン	他動詞	～にある
utomciwre	ウトムチゥレ	他動詞	～を重ね着する
yaykonisnu	ヤィコニシヌ	自動詞	退屈である、淋しい

今日の学習

1.神謡について
　神謡と言えば知里幸恵の「アイヌ神謡集」が有名で、実際にそれを読んだり、あるいはどこかで聞いた事がある人がいるかも知れません。一行あるいは数行毎に一定の折節（石狩方言では　sakehe　サケヘ）を入れながら謡われる口承文芸の一ジャンルで、石狩方言では　oyna　オィナ　と呼ばれます。胆振や日高では同じ言葉が人文神を主人公とした「聖伝」と訳される全く違ったジャンルのものを指しますので、注意が必要です。

2.eurorpe　について
　節をつけて謡われる物語の冒頭や句間に挿入される言葉で、特に意味はありません。演じる者の声ならし、あるいは一種の場面転換の役目を果たすと考えられます。

MEMO

Lesson43

Kampinuye 43 (Rep ikasma tuhot) アイヌ文学
カンピヌイエ　レプ　イカシマ　ドホッ　— 神 謡(2)

その2　砂沢クラ媼伝承　「オイナカムィの妹神が自らを物語る」

折節(sakehe)は ○記号１つにつき　hao

○○○　inkar=as　awa
インカラシアワ　見ると

○○　aynumosir
アィヌモシリ　人間界

○○○　kotan　un　hi
コタヌニ　村のある所は

○○　citatoy-onne
チタトィオンネ
土が掘り返され滅茶苦茶になり

○○○○　iki　kor
イキコロ　すると

○○　yaykopaste=as　kusu
ヤィコパシテアシクス　びっくりしたので

○○　kantokotor　ta
カントコトッタ　天の上に

○○　rikip=as　awa
リキパシアワ　上がると

○○　emuymuye=as　kor
エムィムィアシ　コロ
(布団がわりの) 着物を頭から被って不貞寝して

○○○　okay=as　awa
オカヤシアワ　いると

○○　aynumosir　wa
アィヌモシリワ　人間界から

○○○○　sonko　ek　kor
ソンコエッコロ　知らせが来ると

○○　oynakamuy
オィナカムィ　オイナカムイ

○○○　kor　turesi
コッドレシ　の妹が

○○　aynukotan
アィヌコタン　人間の村

○○　wente　ki　na
ウェンテキナ　を破壊したぞ

○○　eurorpe
エウローロペ

○○○　ci=kamuy-yupo
チカムィユポ　私の神の兄さんは

○○　iruska　p　ne　kusu
イルシカプネクス　腹を立てたものだから

○○○　ci=tanneotopi
チタンネオトピ　私の長い髪

○○　etekkonoye
エテッコノイェ　を手に巻きつけ

○○○　ane　cikunni
アネチクンニ　細い立ち木

○○　un=ekasuyre
ウンエカスィレ　に私を通らせ

○○○　ruwe　cikunni
ルウェチクンニ　太い立ち木

○○　un=ekikkar　wa
ウンエキッカラワ　に私を叩きつけて

○○　u　nekon　ne　ya
ウネコンネヤ　どうなったのか

○○○　u　ray　ne　wa
ウラィネワ　死んだのか

○○　ci=ki　ayne
チキアィネ　そうした末に

単　語

アイヌ語		品詞	日本語訳
ane	アネ	自動詞	細い
aynukotan	アィヌコタン	場所名詞	人間の村
cikunni	チクンニ	名詞	立ち木
citatoy-onne	チタトィオンネ	他動詞(中相)	土が掘り返されて滅茶苦茶になる
ekasuyre	エカスィレ	他動詞	～に～を通す
ekikkar	エキッカラ	他動詞	～に～を叩きつける
emuymuye	エムィムィエ	自動詞	(布団がわりの) 着物を頭から被って不貞寝する
etekkonoye	エテッコノイェ	他動詞	～を手に巻きつける
oynakamuy	オィナカムィ	名詞	オイナカムイ
ray	ラィ	自動詞	死ぬ
rikip	リキプ	自動詞	「上がる」の複数形(注:単数形　rikin)
ruwe	ルウェ	自動詞	太い
sonko	ソンコ	名詞	知らせ
tanneotopi	タンネオトピ	名詞(所属形)	～の長い髪
turesi	ドレシ	名詞(所属形)	～の妹
u	ウ	虚辞	韻文で音節数を整えるため用いる意味のない言葉
wente	ウェンテ	他動詞	～を壊す
yaykopaste	ヤィコパシテ	自動詞	びっくりする

今日の学習

1. 口承文芸の人称について

　アイヌの口承文芸の特徴は「私が～した」という一人称で語られる事で、例えば「お爺さんが～した」と三人称で語られる和人の昔話などとは随分違った趣があります。前回から主人公が一人称で語る文が続いていますが、今まで学んできた　ku=　ではないことを不審に思ったのではないでしょうか。ci=、=as　が「私は」の意味で用いられていますが、これは一人称複数除外形、つまり「相手を含まぬ私達は」として学んだものです。実は、物語の中での一人称の人称接辞は、日常会話に用いるのとは以下の様に異なる用い方をされます。

① 一人称複数形に除外形と包括形の区別がない。例えば　ci=　も　an=　も共に「私達は、私達の」の意味しかありません。ci=teke　と言っても　an=teke　「私達の手」です。
② 一人称の単数と複数が同形。例えば　ci=teke　は「私の手」である場合と「私達の手」である場合があります。どちらの意味かは文脈で分かるため、あまり問題はありません。
③ 単数、複数で形が異なる動詞の場合、特に自動詞は主語が単数の「私」であっても、必ず　rikip=as「私は上る」、okay=as「私はいる」のように複数形を用います。

　口承文芸の一人称に関して、神謡では現在学習中のものの様に　ci=、=as、=un　のみが用いられる他、an=、=an、i=のみが用いられるもの、両方混合して用いられるものがあります。神謡以外のジャンルではほとんど全てに　an=、=an、i=が用いられます。
　ところで口承文芸と似た人称の使い方を、実は日常会話の中に用いる事があります。それは人から聞いた話を引用する場合に「私は…」などと述べていき　sekor ○○　itak「と○○が言った」 などと結びます。この時の「私は」に　an=などの形が用いられるのです。口承文芸の大多数も正にこの形式に沿っています。面白い例としては、鹿田シムカニ媼伝承の神謡では、物語中に主人公とは別の人物の語りが引用される際に、それまでの　ci=、=as　から　ku=　への切り替えがなされる事で、まるで引用を示す表示が消え、本来の語形が露出したかの様な印象を受けます。

Lesson44

Kampinuye 44（Inep ikasma tuhot） アイヌ文学
カンピヌイエ　イネプ イカシマ ドホッ　— 神 謡(3)

その3　砂沢クラ媼伝承　「オイナカムィの妹神が自らを物語る」

折節（sakehe）は ○記号１つにつき　hao

○○　inkar=as awa
インカラサワ　見ると

○○　eurorpe
エウローロペ

○○○○　u poknamosir
ウポクナモシリ　地獄

○○　iwanmosir ta
イワンモシリタ　六層界の地獄に

○○　okay=as kane
オカヤシカネ　私はいて

○○　orowanopo
オロワノポ　それから

○○　cis=as kor
チシアシコロ　私は泣きながら

○○　nekon poka
ネコンポカ　どうにか

○○○　iki=as ki wa
イキアシキワ　して

○○　rikunkanto ta（＞ otta）
リクンカントタ　上層界の天に

○○　okay
オカイ　いる

○○　hampe totto
ハンペトット　父母

○○　teksama pakno
テクサマパクノ　その側まで

○○○　rikip=as kuni
リキパシクニ　上がろうと

○　u yaynu=as kor
ウヤィヌアシコロ　思って

○○○　cis=as kor
チシアシコロ　泣きながら

○○　sakpa iwan pa
サクパイワンパ　夏年六年

○○○　matapa iwan pa
マタパイワンパ　冬年六年

○○○　iki=as ayne
イキアサィネ　そうした末に

○○　etoyposo=as wa
エトィポソアシワ　土から頭を出して

○○　inkar=as awa
インカラサワ　見ると

○○○　u nepkewkata
ウネプケゥカタ　何の姿にぞ

○○　u siran ki na
ウシランキナ　あるやらん

○○○　makayo ne wa
マカヨネワ　フキノトウになって

○○○　etuk=as ki na
エトカシキナ　芽を出したよ

単　語

アイヌ語		品詞	日本語訳
etoyposo	エトィポソ	自動詞	頭を出す、顔を出す
etuk	エトゥ	自動詞	芽を出す、生える
iwan	イワン	連体詞	①六つの　②沢山の
iwanmosir	イワンモシリ	場所名詞	六層界の地獄、無間地獄
makayo	マカヨ	名詞	フキノトウ
matapa	マタパ	場所名詞	冬年
nekon poka	ネコンポカ		どうにか（して）
nepkewkata	ネプケゥカタ	副詞	何の姿にぞ
orowanopo	オロワノポ	接続詞	それから
poknamosir	ポクナモシリ	場所名詞	①地獄　②死者の国
sakpa	サクパ	場所名詞	夏年
teksama	テクサマ	位置名詞（長形）	～のすぐ側　（注:短形は teksam）

今日の学習

1．poknamosir　と　kannamosir

アイヌの古い宗教観では、人が死ぬと地下にある死者の国に行くとされていて、これを　poknamosir　あるいは poknasir　と呼び、Kampinuye15の石狩紀行（10）で紹介した突哨山の洞窟もここに通じるとされていました。そこでは人間界と同様に死者達が集落を作って日常生活を送っている一方、もっとずっと下の方には、人であれ、怪物であれ、神であれ、悪い事をした者達が落とされる地獄があり、iwanmosir、iwan poknasir　と呼ばれます。またジメジメ湿っているから　teyne　poknasir、水も無く（食糧にすべき）鳥すらいないので　wakkasakkotan　cikapsakkotan　などとも呼ばれます。

一方、神々が暮す天上界を　kannamosir　と呼び、幾つかの階層があって、位の高い神ほど高い天に住むとされました。最上層に住まうとされた　sikantokorkamuy　を昔のエカシ達は「宇宙の最高神」と日本語に訳していました。

ところが現在、旭川では　poknamosir　を悪人が行く「地獄」、kannamosir　を善人が行く「天国」と理解していて、お別れの際に言う言葉も「カンナモシリさ行けよ」とか「天の国に行けよ」と言うようになっています。こうなった理由としては

①物語の中で悪い者が　poknamosir　に落とされる描写が多くされる一方、大抵神の血を引く英雄やその両親などが死ぬと　kannamosir　に行く描写があるため、次第に前者が「地獄」、後者が「天国」と理解された

②金成マツ媼のキリスト教伝道によって、一時　旭川のアイヌ全員がキリスト教に入信したと言われ、この時キリスト教の教義とアイヌの宗教観が融合した

という二つが考えられます。

2．iwan　について

iwan　は、これまで「六つの」という意味で学習してきましたが、よく「沢山の」の意味でも用いられます。先の iwanmosir　の　iwan　も「沢山の」の意味で、ずっとはるか地底の世界を表しています。また　sakpa iwan pa matapa iwan　pa　の表現も「六年」ではなく、「何年も何年も」と言っているのです。特に韻文を和訳する際には、アイヌ語文の趣を伝えるためか「六年」、「六日」、「六人」等とするのが通例になっていますが、実数を表していない事が多いので注意が必要です。

3．sakpa　と　matapa

日本語では「春夏秋冬」で一年を四つに区切ります。北海道や樺太、千島にも四季はありますから、例えば石狩方言では paykar「春」、sak「夏」、cuk「秋」、mata「冬」という言葉があります。けれど古くは　sakpa「夏年」、matapa「冬年」という年の数え方をしていた事が物語の表現から分かります。この数え方では今の一年を二年と数える訳です。面白い事にロシア語でも古くは同じような数え方があり、現在でも　Сколько лет сколько зим！「お久しぶり！（直訳すると「幾つの夏、幾つの冬」）」という表現や　год「年」の複数生格　лет　に名残を止めています。寒冷地では「暖かさ」と「寒さ」が人に強く印象を与えるためではないでしょうか。

Lesson45

Kampinuye 45（Asiknep ikasma tuhot）アイヌ文学
カンピヌイエ　アシクネプ　イカシマ　トホッ　— 神 謡(4)

その4　砂沢クラ媼伝承　「オイナカムィの妹神が自らを物語る」

折節（sakehe）は ○記号１つにつき　hao

○○	orowano	
	オロワノ	それから
○○	cis=as kane	
	チサシカネ	泣きながら
○○	aynumosir ta	
	アィヌモシッタ	人間界に
○○	okay=as ki na	
	オカヤシキナ	私はいるよ
○○○○	aynumosir	
	アィヌモシリ	人間界
○○○	ci=wente kusu	
	チウェンテクス	を私が破壊したので
○○	unci=panakte kusu	
	ウンチパナッテクス	私は罰せられたので
○○○○	makayo ne wa	
	マカヨネワ	フキノトウになって
○○○	aynumosir ta	
	アィヌモシッタ	人間界に
○○	okay=as ru ne	
	オカヤシルネ	私はいるのですよ
○○○○	ikaneypeka	
	イカネベカ	決して
○○○	tane wano	
	タネワノ	これから
○○	okay	
	(オカイ…)オカイ	いる
○○	kamuy utari	
	カムィウタリ	神の一族は
○○	aynumosir	
	アィヌモシリ	人間界
○○○	wente ki na	
	ウェンテキナ	を破壊するなよ
○○	eurorpe	
	ヘウーロロペ	
○○○	aynumosir	
	アィヌモシリ	人間界
○○	ci=wente kusu	
	チウェンテクス	を私は破壊したので
○○○○	kantokotor ta	
	カントコトッタ	天に
○○○	okay	
	オカイ	住む
○○	oynakamuy	
	オィナカムィ	オイナカムイ
○○○○	ci=ne a korka	
	チネアコロカ	私であったけれど
○○○	makayo ne wa	
	マカヨネワ	フキノトウになって
○○	okay=as ru ne na	
	オカヤシルネナ	いるのですよ
○○○○		

単　語

アイヌ語		品詞	日本語訳
ikaneypeka	イカネィペカ	副詞	決して～(する)な
panakte	パナッテ	他動詞	～を罰する

今日の学習

1. ikaneypeka による禁止の表現

Kampinuye21で　eciki　を使った禁止の表現を学びました。

これは　Eciki e ya！「それを食べるなよ！」の様に「eciki＋命令文」の形でした。

それに対し　ikaneypeka　は、

Ku=ye a itak ayta ru an yakka ikaneypeka es=iruska na ！

「私が言った言葉に誤りがあっても決してお怒りにならないで下さい。」(祈詞)

のように「**ikaneypeka＋肯定文＋na**」の形になります。物語の他、神への祈詞といった雅文調の文体で多用されます。

石狩方言では、この他に　ikianep、inkaneypeka、inkanep　などの異形があります。

尚、ikaneypeka　は「決して～(する)な」ですが、旭川の祈詞としては文法的におかしい　ikaneypeka cianunkopasak no　がよく現れます。「決して他人扱いするな」と言いたいはずが、これでは反対の「他人扱いしてくれ」になってしまいます。こういう混乱があったため、杉村満翁の世代には、理屈に合わぬ　ikaneypeka　の扱いに苦慮し、「何事も」、「何れにしても」の意味にされてしまいました。近年の資料を見ていく場合、注意が必要です。

2. 韻文と音節

日本語では詩を詠む際に５音節か７音節に整える事が好まれます。アイヌ語でも韻文では５音節前後に整えられます。この時に音節の数が足りないと、今まで学習した　ip　や　u　が用いられる他　wente ki na　の様に動詞の後に ki が用いられます。この　ki　は時に　kiki　と二つ重ねられる事もあります。

もっと知りたい

明治時代、石狩川筋にも和人の侵略が本格化する中、土地や資源を奪われた上川のアイヌ達は札幌の裁判所に訴えますが、裁判所では彼らが日本語を知らないとして、訴状を受け付けませんでした。殺されても文句も言えないような理不尽な状況を打開し、民族の存続のため闘う手段として、以降 旭川を中心に急速に日本語の習得が進みました。一刻も早く和人に匹敵する力を得ようと、当時の人達は心ならずも自分の子供達をアイヌ語やアイヌ文化から遠ざけました。口承文芸も消滅の危機に瀕しましたが、生きるのでさえ大変な状況下で、これを守り伝えたのは女性達でした。金成マツ媼や知里幸恵さんが旭川にいた頃、川村ムイサシマッ媼、杉村キナラブク媼など女性達が集まって、夜毎謡い語り合ったそうです。また、沙流の有名な平賀サダモ媼も時に来て、川村ムイサシマッと畑仕事をしながらユカラをしたと言います。

石狩川筋では、女性がユカラに節を付けて行ってはならないとされましたが、川村ムイサシマッ媼は、誰か人が死ぬと“Muysasmat yukar kusu aynu ray！”「ムイサシマッがユカラするから人が死ぬ！」などと悪口を言われたり、さんざん辛い目に合わされましたが、決して信念を曲げませんでした。そうして彼女が盾になったお陰で、女性の後輩達も伝承を続けられました。今回学んだ神謡の伝承者 砂沢クラ媼は ムイサシマッ媼の娘に当たります。今後「アイヌ文学の日」といった記念日を設け、偉業をなした女性達に感謝し、身近にいる心がけの良い女性を大切にしたら良いのではないでしょうか。

Lesson46

Kampinuye 46（Iwampe ikasma tuhot）寒い、暑い の表現

カンピヌイエ　イワンペ イカシマ ドホッ

例　文

1. A: Tan tumpu otta sonno sissesek na .
タン ドンプ オッタ ソンノ シッセセク ナ　（この部屋はとても暑いよ。）

B: A ? Ku=merayke human .
アー クメライケ フマン　（えー？私は寒い。）

A: E=omkekar ya ?
エオムケカラー　（あんた風邪ひいてるの？）

: Cise soy ta mean korka te ta sissesek ru un .
チセ ソィタ メアン コロカ テタ シッセセク ルウン
（家の外は寒いけれど ここは暑いよ。）

: Eikos ku=sesek kusu en=ka wakkakus .
エイコシ クセセク クス エンカワッカクシ　（あんまり暑いから汗が出る。）

B: Ampe ne ya ?
アンペ ネヤ　（本当かい？）

2. A: Yaytupareno apkas ya ! Sinrarak wa iyaykipte kusu .
ヤィドパレノ アプカシ ヤー シンララク ワ イヤィキプテ クス
（気を付けて歩きなさいよ。あたりがツルツルで危ないから。）

B: Ayapo ! Itasasa ! Ku=rarak wa hatcir !
アーヤポ イータササー クラーラク ワ ハッチリ　（うわー。痛たた。滑って転んだ。）

単　語

アイヌ語		品詞	日本語訳
ampe	アンペ	名詞	本当の事、真実
hatcir	ハッチリ	自動詞	転ぶ
itasasa	イタササ	間投詞	痛たた!
iyaykipte	イヤィキプテ	自動詞	危ない
kasi・wakkakus	カシワッカクシ	連他動詞	汗が出る（注:対格人称形は ka wakkakus ）
mean	メアン	完全動詞	寒い
merayke	メライケ	自動詞	寒い
omkekar	オムケカラ	自動詞	風邪をひく
rarak	ララク	自動詞	滑る
sesek	セセク	自動詞	暑い
sinrarak	シンララク	完全動詞	あたりが滑る
sissesek	シッセセク	完全動詞	暑い
soy	ソィ	位置名詞	～の外（注:長形 soyke ）
tumpu	ドンプ	名詞	部屋（注:本来「寝室」の意味だが、現在その他の「部屋」一般にもこの語を使う事が多い。）

今日の学習

1.動詞と項について

アイヌ語の動詞を説明する時、「項」という言葉がよく使われます。これは動詞のとり得る主語や目的語の数を表すのにとても便利です。

例えば、自動詞　ipe「食事をする」の場合、

[Oota-san] ipe . [太田さん]は食事をする。

の様に、主語となる言葉が入る [　] が一つあります。ですから自動詞など [　] が一つの動詞を「１項動詞」とも呼ぶ訳です。この [　] の中には

[Oota-san Haciya-san] ipe . [太田さんと八谷さんは]食事をする。

の様に、同格なら幾つでも単語を入れる事ができます。

他動詞の場合には、

[Oota-san] [pan] e . [太田さんは] [パン] を食べる。

[Oota-san] [Haciya-san] [pan] kore . [太田さんは] [八谷さん] に [パン] をあげる。

の様に、主語の他にも目的語となる言葉が入る [　] があります。そして、[　] の数によって、「２項動詞」と呼ばれるものや「３項動詞」と呼ばれるものがあります。

2.完全動詞について

アイヌ語には主語も目的語もとらない動詞があります。mean、sissesek、sinrarak　がこれに当たります。今日の学習1の分類に従えば「０項動詞」ですが、このテキストでは今まで自動詞、他動詞の品詞名を用いてきましたので、田村すず子氏の用いる「完全動詞」という名を採用しました（注）。

日本語では気温が「寒い」も、私が「寒い」も同じですが、アイヌ語では例文に見る様に、別の言葉を使うので注意が必要です。一部今日の単語と重複しますが、日常的に使う言葉を表にまとめておきますので、是非覚えて下さい。

完全動詞	日本語訳	自動詞	日本語訳
sissesek	（気温が）暑い	sesek	暑い、熱がある
sirpopke	（気温が）暖かい	popke	暖かい
sirmeman	（気温が）涼しい	meman	涼しい
mean	（気温が）寒い	merayke	寒い
meun	（気温が）寒い	meun	寒い
		menoyean	寒い
sinriten	しばれが緩む、雪融けになる、雪融けである		（konru ru 氷が溶ける、upas nin 雪が消える）
sinrupus	しばれる	rupus	凍る
sirpeker	（あたりが）明るくなる、明るい、朝になる	peker	明るくなる、明るい
sirkunne	（あたりが）暗くなる、暗い、夜になる	kunne	暗くなる、暗い
sirekurok	（あたりが）真っ暗になる	ekurok	真っ暗になる、真っ暗である
sirpirka	天気が良くなる、天気が良い		
sirwen	天気が悪くなる、天気が悪い		
sirhawke	天候が穏やかになる、静かになる	hawke	穏やかになる、穏やかである
sirmo	（あたりが）静かになる、静かである	mo	静かになる、静かである
sirapa	雨漏りする	apa	雨漏りする

※注　知里真志保氏などの古い資料を見る場合「完全動詞」は自動詞、「不完全動詞」は他動詞を指しているので、混同しないよう注意が必要です。

3.連他動詞　kasi　wakkakus

kasi wakkakus　は　kasi-wakka-kus「その上・水が・～を通る」という言葉から出来ていますが、一風変わった連動詞の中でも主語の　wakka　が抱合され、目的語だけを取るという大変な変り種です。例文１では、「私が汗をかく」ですが、アイヌ語では「私の上を水が流れる」と考えて　en=ka　wakkakus　となっているのです。これが「彼が汗をかく」、「太田さんが汗をかく」という三人称の場合には、それぞれ　kasi　wakkakus　と　Oota-san　kasi　wakkakus　となり、対格の人称接辞をとる場合に　ka　wakkakus　の形になります。

尚、これを　kasi　と　wakkakus　の二語から成る表現とする考え方もあります。しかし、例えば　ka　toy　kus「～に土が被さる」という表現では　e=ka　toy　kus「お前の上に土が被さる」だけではなく　araysir　ka　toy　kus「死体に土が被さる」でも　ka　を用いる事ができるところは、先の　kasi　wakkakus　と異なりますので、将来研究が進んで、現在の品詞名が否定されたにせよ、少なくとも石狩方言では、両者の違いを区別する用語が必要です。

Lesson47

Kampinuye 47（Arwampe ikasma tuhot）アイヌ語の文化的背景について(2)

カンピヌイエ　アラワンペ　イカシマ　ドホッ

一般的にアイヌは狩猟採集民族と言われますが、kampinuye22でも少し触れたように、かつては北の交易路を支える交易民族でした。松前藩との経済戦争に敗れ、徐々に主要な生業の交易を制限される中で、生活の基盤を狩猟漁労採集に置かざるを得なくなりましたが、それさえも幕末期の場所請負制下での強制労働により、満足に行えぬようになりました。明治に入って、それまで外国であった蝦夷地が日本領とされ、植民が行われる事により、狩猟の場、漁労の場を悉く和人に奪われ、アイヌの民族としての自立した社会は破壊されて今日に至っています。今回は、石狩川筋のアイヌの狩猟の文化について触れてみたいと思います。

1. iwor　について

iramante　は「狩をする」という意味の自動詞で、これから　iramantekur　「狩人」という名詞が作られます。但し、日常の言葉としては自動詞の　kimun「山に狩に行く」を用います。(川で漁をする場合も同じですが)山で猟をするといっても、何処へでも好きな場所に行けた訳ではありません。iwor　という言葉がありますが、祈りの言葉や雅語表現として　iworso kurka koapkas　と言えば「奥山を歩き回る」ぐらいに訳されますが、現実の世界では共同体や特定の一族、一家、あるいは個人が生活の糧を得るための領域であって、農耕社会と所有の形態は少し異なるけれど、日本語で言う「所有地」に当たるでしょう。ですから、狩は各人定められた　iwor　で行い、他人の　iwor　を無断で犯せば紛争の元になりました。石狩川筋では、クルミの木１本についても「誰々の　nesko」のように所有がはっきりし、今でも記憶されているくらいです。こういった　iwor　は婚姻関係や移住などによって各地に点在する事となり、近場はともかく遠方の場合には親族、家族などを引き連れてそこへ赴き、長期にわたって滞在する事もあったようです。明治政府が北海道を無主の土地として我が物にしたように、誰かが日本を無主の土地として奪っても文句は言えない筈です。

余談はさておき、アイヌ同士では紛争の火種になりがちなこの　iwor　ですが、それでも色々な決まりを作って協調を図ってもいたようです。

ユカラの一節に

“… Tapan kotan kor nispa otta ay=ye ki wa somo ne yakne peray ka eaykap ruwe ne kusu tapan kotan kor nispa oro ta rikip=an ki wa peray=an kuni ay=ye ki ki wa rap=an nankor …”

「…この村の長の所で断りをいれて、そうしなければ私達は釣ができぬので、この村の長の所に上って　釣をすると断りをいれて来る…」

とありますが、この様に　iwor　の所有者に許可をとったりもしたようです。実際、追っていた獲物が他人の　iwor　に逃げ込んだりもしますから、こういったルールは欠かせないものだったのでしょう。

2. 昔の狩について

昔、鉄砲がまだ無い時代、狩をするのに　ku「弓」と　ay「矢」を用いました。子供の頃から男の子は玩具の弓矢を与えられ、それで遊ぶので、時には一緒に遊んでいる仲間を傷つけたりして大変でした。それでも一人前に育ち弓の名手にならねば、とても生きてはいけません。クマを獲るには鉄砲ですらかなりの危険が伴うのに、弓矢の場合はその射程や威力を考えれば、その危険性の大きさは計り知れません。アイヌは矢毒として　surku「トリカブトの根」から採った毒と秘伝の調合物を混ぜて使うのですが、この辺の話は先にKampinuye30の「もっと知りたい」でしました。空知アイヌの首長家の空知イチレ翁は

- surku
  - 毒性が弱く矢毒に使われないもの　setasurku
  - 毒性が強く矢毒に使われるもの　yayaysurku
    - ①　puyraussurku
    - ②　noyahamussurku
    - ③　kerepnoye
    - ④　kerepturse

（参考：「分類アイヌ語辞典　植物編」知里真志保の解説による。）

と分類していたそうで、特に③は毒性が強烈で、その名の通り触れるものにまとわりついて動けなくする。④はそれより毒性に劣るが効果が最も顕著で、触れたものが吹っ飛ぶのでした。そして③を女性、④を男性と考えていたそうですが、杉村キナラブク媼伝承の神謡に、妻をオタストンクルに殺されたクマ神が、復讐のため人間の村を滅ぼそうとして返り討ちに遭う描写に

“… a=yaytu sine ay osma orowanopo surku-katkemat i=aske uk yak ye kor an=payserkee konoykosanu unkotuk-okkaypo i=aske uk (yak) ye haw ko turse an=payserkehe … an=cikiri an=teke unkotuk-okkaypo konoykosanu orano an=eokok apkas=an ka eaykap surku-katkemat i=aske uk (yak) ye haw ko turse iki ayne mokor e ray e …”

「…私の脇に一本の矢が当たり、それからトリカブトの女神が私を（おいでおいで）招待したいと言いながら、私の下半身にパッとまとわりつき、松脂の青年神が私を招待したいと言う声がして、私の下半身…私の手足に松脂の青年神がパッとまとわりつき、それから私はそれで躓き、歩く事もできず、トリカブトの女神が私を招待したいという声がして、眠ったのか死んだのか…」

とあります。ここではトリカブトは女神であり、まとわりつくと言われているのは③に合致します。松脂は調合される混ぜ物で、私はこれを使う実例を聞いた事はありませんが、家系によって使ったのでしょう。この神謡ではこの後、体を抜けたクマ神の魂が自分の死体の処置を見守る描写が続きます。この後、オタストンクルの家に自分の死体ともども下がるのですが、先に獲られていたクマの女神は賓客としてもてなされるのに、悪い心を持った旦那の方は粗末に扱われ、更に他の神々にも責められる事になります。クマ神が狩られた時、一緒に連れていた小グマは人間の元で大切に育てられ、やがて沢山の土産と共に神の国にいる両親の元に帰って来て、他の神々も集まって宴会が催されるという話です。全体で４０分程かかり、神謡としては長い部類に入るもので、アイヌの狩猟に対する考え方を知る上では教科書的なものですから、機会があったら是非読むなり、聞くなりしてみて下さい。

さて、これ程気を配っても事故はつきもので、川村モノクテ翁は全身クマの歯や爪で出来た傷が模様のようであったと言います。手などを食い千切られたり、顔面など大きく抉られたりと、現在描かれるリアリティの無い小綺麗なものではなく、心を尽くし闘う誇り高い男の姿がありました。今後かつてのアイヌ像を描く場合、注意しなければならないでしょう。クマに付けられた傷は、治りが早いなどと信じていた昔のアイヌにとって勲章だったのです。

仕掛弓は獲物に反撃される危険を減らす発明でした。旭川では、一般に　kuare　、栗山勝太郎翁は　kuama　と言いました。これを仕掛ける時には、人に分かるよう印を付けていたらしいのですが、それでも仕掛けた人以外は見落として、仕掛弓にかかる事故もありました。クマをも倒す猛毒ですから、そうした時にはまず助かりませんでした。他人が仕掛弓を仕掛ける沢には入らないというのが決まりだったそうです。今でも北海道各地に　Kuannay、Kura、Kuraromay など仕掛弓にまつわる地名が多いのは、事故を避けるため皆が気を付けていたからと考えられます。

3. 鉄砲に関するアイヌ語

鉄砲は比較的新しい時代にアイヌに伝わりました。それで日本語から借用して　teppo　と言う地域も多いのですが、旭川には他に　puspe　という言葉があります。これは分解すると　pus-pe「バンと爆ぜる、鳴る・物」となります(「火薬」の意味もありますので、注意が必要です)。玉は日本語そのまま　tama　です。

鉄砲に関した表現には

puspe pattekka	鉄砲をバンと鳴らす(撃つ)
puspe ani ～ tukan	鉄砲で～を撃つ

などがあります。tukan　は「～を撃つ」という他動詞で、勿論 弓で「～を射る」という意味もあります。かの　砂沢一太郎翁のアイヌ名は　Tuakanno　ですが、これは「～をよく射る」つまり「二の矢は要らぬ」の意味でした。

4. 今後の展望

交易や漁労、採集と同様に狩猟はアイヌ文化の一つの柱です。旭川地域には、昔からの狩猟の伝統を引き継ぐ優れたアイヌが多いのですが、なかでも川上哲氏は長年にわたってその継承に努めてきました。現在 氏は狩猟文化に焦点を当てた体験学習の必要性をうったえて、その場の確保に活動されていますが、今のアイヌと昔のアイヌの心が一つになるような素晴らしい空間が創造される事でしょう。

MEMO

Lesson48

Kampinuye 48（Tupesampe ikasma tuhot）連他動詞のいろいろ

カンピヌイエ　ドペサンペ　イカシマ　ドホッ

例　文

1. A: Kesto kesto en=ka e=oyki keray kusu tane ku=pirka ru ne .
ケシト　ケシト　エンカオィキ　ケライクス　タネ　クピリカ　ルネ
（毎日毎日 看病してくれたおかげで もう元気になった。）

Iyayraykere !
イヤィライケレ
（有難うよ。）

B: Hapap hapap !
ハーパプ　ハーパプ
（良かった良かった。）

2. A: En=ka oyki !
エンカオィキー
（助けてー。）

B: Ku=ma eaykap .
クマ　エアィカプ
（私は泳げないんだ。）

: Nen ne yakka pirka kusu taan ekatci kasi opas ya !
ネンナッカ　ピリカ　クス　タアネカッチ　カシオパサー　（誰でも 良いから あの子を助けてくれ。）

3. A: Taankur yaykata sunke a p , en=ka oytak hawe ne .
タアンクル　ヤィカタ　スンケ　アプ　エンカオィタク　アウェネ
（あの人自分で嘘をついたのに、私のせいにしたんだって。）

B: Paw ! Kamiasi ne ru un ! Eciki hawsak na !
パーゥ　カミヤシ　ネ　ルウン　エチキ　ハゥサク　ナ
（ええっ。ひどい奴だね。ガツンと言っちゃいなさいよ。）

4. A: Tanpa ka Sorapci ehorari kamuy utar ci=nomi kusu
タンパカ　ソーラプチ　エホラリ　カムィウタラ　チノミ　クス
（今年も空知の神様方のお祭りをしますから

es=aske ci=uk kusu arki=as ruwe ne na .
エシアシケ　チウク　クス　アラキアシ　ルウェネ　ナ　あなたを招待しに参りました。）

: Etoko es=oyki okere yakun nani turano paye=an ro !
エトコ　エソィキ　オケレ　ヤクン　ナニ　ドラノ　パイェアン　ロー
（あなたの準備が整いしだい 共に参りましょう。）

B: Es=en=askeuk wa sonno ku=eyayrayke hawe tapan na .
エセナシケウク　ワ　ソンノ　クエヤィライケ　アゥ　タバンナー
（私をお招きいただき とても感謝いたします。）

: Tane ku=ki kunip ku=okere kusu ponno en=tere wa i=korpare yan !
タネ　クキ　クニプ　クオケレ　クス　ポンノ　エンテレ　ワ　イコロパレ　ヤン
（ただ今用事を済ませますので 少しお待ち下さい。）

5. A: Taan ekatci kor totto canan paro oyki ki yak a=ye .
タアンエカッチ　コットット　チャナン　パロィキ　キー　ヤカイェ
（あの子の母さん ろくに養いもしないんだって。）

B: Somo . Irammakaka paro osuke korka kor totto tumuwen kusu
ソモー　イランマカカ　パロオスケ　コロカ　コットット　ドムウェン　クス
（いいえ。しっかりと彼に食事を作ってるけれど、彼の母さんは体が悪いので

ikaoykicise otta an hi ta yayparoyki ruwe ne wa .
イカオィキチセ　オッタ　アニタ　ヤィパロィキ　ルウェネ　ワ
（母さん）病院にいる時に 自活してるんだよ。）

単　語

アイヌ語		品詞	日本語訳
askeuk	アシケウク	他動詞	～を招待する
aske uk	アシケ・ウク	連他動詞	～を招待する
canan	チャナン	副詞	粗末に
ehorari	エホラリ	他動詞	（神が）～に鎮(しず)まる
etoko oyki	エトコ・オィキ	連他動詞	～の準備をする
eyayrayke	エヤィライケ	他動詞	～について感謝する
hapap hapap	ハーパプハーパプ	間投詞	（病気が治った人に労いの言葉として）大変だったね、良かったね
kamiasi	カミアシ	名詞	怪物
kasi opas	カシ・オパシ	連他動詞	～を救助する、～を救援する（注:目的格人称形　ka opas ）
kasi oyki	カシ・オィキ	連他動詞	①～を看病する②～を助ける（注:目的格人称形　ka oyki ）
kasi oytak	カシ・オィタク	連他動詞	～のせいにする、～に託ける（注:目的格人称形　ka oytak ）
keray kusu	ケライクス		～のお蔭で
ma	マ	自動詞	泳ぐ
paro osuke	パロ・オスケ	連他動詞	～に食事を作る　（注:目的格人称形　par osuke ）
paro oyki	パロ・オィキ	連他動詞	～を養う　（注:目的格人称形　par oyki ）
tumuwen	ドムウェン	自動詞	体が悪い、病弱である
yayparoyki	ヤィパロィキ	自動詞	自活する

今日の学習

連他動詞のまとめ

Kampinuye46で　kasi wakkakus　という連他動詞について学びました。今回はまたそれとも違った形のものが幾つか出てきましたので、少し整理してみましょう。

1. 名詞＋他動詞の形になっているもの

（例）（目的格三人称）　paro osuke　（目的格人称形）　par osuke

paro osuke　は直訳すると「～の口・～に料理する」です。paro　はこれまでの常識では名詞の所属形という事になります。しかし、例えば「私の口」と言う場合に　ku=paro　となるのに対して、連他動詞の構成要素としての　par　は

en=par e=osuke「君が私に食事を作る」

の様に、目的格人称形では　en=par　と通常の名詞とは使われ方が全く違います。

この形の連他動詞の特徴は、**目的格が三人称の場合には前綴りの名詞は所属形、目的格人称形の場合には概念形になる事です。**

2. 位置名詞＋他動詞

（例）（目的格三人称）　kasi oyki　（目的格人称形）　ka oyki

連他動詞としてはこの形が大半を占めます。1とは異なり、位置名詞は人称接辞の目的格を取りますし、他の語と用いる時には短形、単独で用いる時には、長形という位置名詞の性質にも合致している様にも思えます。但し、これを同じく位置名詞を用いた慣用表現と分けねばならないのは、**目的格が三人称の場合には前綴りの位置名詞は長形、目的格人称形の場合には短形と規則的に変化する事です。**

尚、この形の連他動詞の中には　oro oytak「～を音読する」、kasi eosorusi　あるいは　kasi oosorusi「～に腰掛ける」など、意味的に目的人称形が存在しないものがありますが、ka eosorusi　等の例が見つかった場合には、連他動詞から除かれる可能性があります。

3. 位置名詞＋自動詞

（例）（目的格三人称）　kasi wakkakus　（目的格人称形）　ka wakkakus

この形は目下、例にあげた一語しか確認されていません。項で言えば　一項動詞であり、これを他動詞と呼ぶのは全くおかしいのです。アイヌ語を自動詞、他動詞で説明していく限界がここにあります。とりあえず目的格の人称接辞を取るところから連他動詞としておきますが、上手い分類を募集します。

これらの連他動詞の中、1と2は目的格人称形の形で一語、つまり他動詞として用いられる事もあります。例文中の　askeuk　がそうですが、その他「お前が私を看病する」なら　e=en=kaoyki　となります。また、yayparoyki　の様に接頭辞が付いて派生する場合にも先の他動詞化した形が用いられます。

Lesson49

Kampinuye 49（Sinepesampe ikasma tuhot）正式な挨拶の言葉（1）

カンピヌイエ　シネペサンペ　イカシマ　ドホッ

Kampinuye39で触れましたが、祈りの言葉を練習のためみだりに唱えてはいけないとされています。そこで、雅語的な表現を多用し、節を付けて行うという似た形式を持つ ierankarap-itak「挨拶の言葉」を紹介します。こういう言葉を用いた挨拶は何時でも誰でもやって良いものではなく、かつてはそれなりに地位のある男同士が公式の場で挨拶を交わす、すなわち　ukoyaytakkar　の際に行われたものです。但し、今後はあらたまった場所で挨拶をする際に、老若男女を問わず行えば良いし、節や内容などは好みによって変えていって良いと思われます。このテキストをもとに、何処でも使えるようなものを一つ暗記し、その後学習が進んで表現や語彙が増えたら色々な組み合わせで練習し、やがて即興で行えるようになったら良いと思います。これができるようになれば、当然神への祈りも即興で言いたい事を言えるようになる筈ですから頑張って下さい。Kampinuye49とKampinuye50では、旭川の石山アツミヤシクル翁が　名寄の北風磯吉翁に実際に行った挨拶の言葉を紹介いたします。

その１

Irankarapte

イランカラプテ　　ご挨拶申し上げます

ku=kor　utarpa！

クコロ　　ウタルパ　　尊きお方！

En=koteksam　ta

エイコテクサムタ　　私の直ぐそばにて

sukup　okkayo

スクプ　　オッカヨ　　暮す男が

an=ne　wa　ne　ciki

アネ　　ワ　　ネ　　チキ　　貴方でありますから

tane　an　tono

タネアン　トノ　　今いる和人

tane　an　oyapmosir

タネアン　オヤプモシリ　　今ある他所者の国

an=kor　rok　kotan

アコンロッコタン　　我々のものなりし国

soyokatciwe

ソヨカッチウェ　　（？）

teeta　wano

テエタワノ　　昔から

an=nomi　kamuy

アノミ　　カムィ　　祈りを捧げられる神

ekasi　orowano

エカシ　オロワノ　　父祖より

an=nomi　kuni

アノミ　　クニ　　祈りを捧げられるように

inawkamuy

イナウカムィ　　イナウの神（？）

kamuy　okay　wa

カムィ　オカィ　ワ　　神様達がおられて

siran　korka

シラン　コロカ　　おりますけれど

oyap　ne　manu　p

オヤプネ　マヌプ　　他所者という者が

{ iyoten… }　i=ohupneka

イオフプネカ　　我らの住む場所を狭め

単　語

アイヌ語		品詞	日本語訳
ciki	チキ	接続助詞	～（だ）から
inaw	イナウ	名詞	イナウ　（注：「木弊」とも訳される。テキスト中では　inawkamuy　と言われているが、「イナウを捧げられる神」の事と考えられる。
koteksam	コテクサム	位置名詞	～の直ぐそば
manu	マヌ	助動詞	～という
ohupneka	オフプネカ	他動詞	～の住む場所を狭める
oyap	オヤプ	名詞	他所者
oyapmosir	オヤプモシリ	場所名詞	他所者の国
siran	シラン	形式名詞＋自動詞	～の様子である　（注：siri　an　と同じ意味。）
soyokatciwe			（意味不詳）
tono	トノ	名詞	和人
utarpa	ウタラパ	名詞	立派な人

今日の学習

1. イナウについて

アイヌの儀式に用いられる祭具で、神に捧げると神の国では宝物に変わり、これを沢山捧げられる事により神の位が上がります。木の表面を掻き削り、削りかけを沢山作ったもので、「木弊」と和訳される事もあります。捧げる神や用途に応じて様々な木で作られ、形状も様々なものがあります。テキストでは　inawkamuy　という言葉が現れますが、「イナウを捧げられる神」の事と考えられます。

川村カ子トアイヌ記念館　提供

2. 敬称の人称接辞　an =

Kampinuye17 で２人称敬称、つまり「あなた、あなた達」の意味の人称接辞として　es=　が用いられる事を学びましたが、石狩方言ではもう一つ、an=　もその意味で用いられます。これは当然自動詞の場合 itak=an「あなた（あなた達が）おっしゃる」、他動詞の場合　an=ye「あなた（あなた達が）～についておっしゃる」の様に用いられます。

3. 接続助詞　ciki　について

Kampinuye37 で仮定を示す用法として「～（し）たら～」の意味で　ciki　が命令文、勧誘の文（あるいは疑問文？）に先行して用いられる事を学びました。この　ciki　にはもう一つ「～（する）から」、「～（だ）から」の意味で条件を示す用法があります。テキストには　an=ne　wa　ne　ciki　とありますが、直訳すると「～で貴方はあってそれだから」となります。この他に物語の中では　itak=an　ciki　e=inu　katu　ene　an　ihi「私が言うからお前が聞くのはこうである」といった表現がよく用いられます。

4. 虚辞的接頭辞　ko　について

koteksam　は位置名詞　teksam　に接頭辞　ko　が付いたものです。この　ko　は韻文表現で音節数を整えるために用いられるもので、意味はありません。同じ働きをするものに　e　がありますが、二つ重ねて　koe　や　eko　となる事もあります。これらは同音で特定の意味を持つ接辞もありますから注意が必要です。

Lesson50

Kampinuye 50（Wampe erehot）正式な挨拶の言葉(2)

カンピヌイエ　ワンペ　エレホッ

その2

an=kor rok kotan

アコンロッコタン　我らのものなりし村が

i=uteksam

イウテクサム　隣り合って

an=ekarkar wa

アネカラカラ　ワ　作られて

siran ki, i=koteksam ta

シラン　キ　イコテクサム　タ

そういう様子であり、我らの直ぐそばで

tono irenka

トノ　イレンカ　和人の法が

u tampe tapne

ウタンペ　タプネ　これこの様に

okampa kusu

オカンパ　クス　やかましいため

i=uteksam ta

イウテクサムタ　隣り合って

okay=an yakka

オカヤナッカ　私たちが暮らしていても

unukar poka

ウヌカラ　ポカ　会う事すら

hayta p

ハイタプ{エイ}　叶いませんでしたが

u tanto otta

ウ　タント　オッタ　今日

unukar=an

ウヌカラン　我等が会い

uerankarap ku=k haw tapan

ウエランカラプ　クキ　アウタパン

挨拶を私は致します。

Ku=kor utarpa

クコルタルパ　尊いお方

u iisoneka

ウイイソネカ　嬉しい事に

ukotektumam（> ukotektumam=an）

ウコテクドマム　互いに手を取り合い

u ratcitara

ウラッチタラ　穏やかに

i=koteksam ta

イコテクサム　タ　私達の元で

sukup=an hi

スクパニ　貴方がお暮らしになるのを

ku=nukar hike

クヌカリケ　私が見るに付け

hapap sekor

ハーパプ　セコロ　有難い、と

ku=ye {ap} kor

クイエアプコロ　私は言って

ukoonkami=an na .

ウコオンカミアンナ　挨拶し合いましょう。

Ku=kor utarpa

クコロ　ウタルパ　尊きお方

eee…

エエエ

単　語

アイヌ語		品詞	日本語訳
ekarkar	エカラカラ	他動詞	（場所）に～を作る
hapap	ハーパプ	間投詞	有難い
hayta	ハイタ	自動詞	～が充分ではない
hike	ヒケ	接続助詞	～（する）と
iisoneka	イイソネカ	副詞	嬉しい事に、良い事に
irenka	イレンカ	名詞	法律、規則、意向
okampa	オカンパ	自動詞	難しい
poka	ポカ	副助詞	～さえ
ratcitara	ラッチタラ	副詞	穏やかに
tapne	タプネ	副詞	この様に（tampe tapne これこの様に）
uerankarap	ウエランカラプ	名詞	挨拶
ukotektumam	ウコテクドマム	自動詞	手を取り合う（注:テキストでは節回しの関係で人称接辞が落ちている。）
unukar	ウヌカラ	自動詞	会う
uteksam	ウテクサム	位置名詞	～が隣り合った所（注:直訳すると、「～の互いの直ぐそば」）

今日の学習

1. 位置名詞　uteksam

　位置名詞に接頭辞が付いた場合

u-sam（互い・のそば）→　usam「互いのそば」、si-etok（自分・の行く前）→　sietok「自分の前」

と場所名詞を形成する一方、uteksam のように位置名詞のままであるものもあります。

　ちなみに、sam「～のそば」に　tek「手」 など身体部位の名詞を付けて　teksam「～の直ぐそば」などという位置名詞が派生しますが、それ以外の名詞では多くの場合　ru-sam（道・のそば）→　rusam「路傍」などという場所名詞を形成する一方、ru-etok（道・の行く前）→　ruetok「～の道行く先」などと位置名詞のままのものもあります。複雑なので十分気をつけて下さい。

2. eee　について

　神への祈り言葉や今回のテキストのような挨拶の言葉だけではなく、日常感謝を表わし　iyayraykere「有難うございます」と言った後に発せられる声で、石狩方言で何と言うか分かりませんが、 simusiska　と呼ぶ地方もあります。一人前になった男性が行う最も礼儀に適った作法です。テキストでは　eee　とか　ハエエエ　などと書かれるため、よく知らない人はそのまま発音してしまうのですが、違った音ですので注意して下さい。

石狩紀行(16)ー千歳川

　支笏湖を水源とし石狩支庁の千歳市から同支庁恵庭市、北広島市と空知支庁の長沼町、南幌町の間を流れ、石狩支庁江別市で石狩川に注ぐ流れを現在「千歳川」と呼び、またその下流部を「江別川」と呼ぶ事もあります。かつてこの中流には、 Osatto、Ankarito、Mawoyto　という巨大な沼が三つ連なっていました。実は現在、「千歳川」と呼ばれるのは本来支笏湖から　Osatto　に注ぐまでのアイヌ語で　Sikot　と呼ばれる川と、Osatto　から流れ出て石狩川に注ぐ　Ipet（あるいは　Epet　）と呼ばれる二つの川でした。それが明治以降農地を広げるため干拓されてしまい、今の様な一本の流れになったのです。

　Sikot　と　Ipet　はそれぞれ流域の地名でもあり、後者は現在の「江別」に繋がるが、前者は「死骨」に通じるとして文化2（1805）年に「千歳」と和名が付けられました。

　江戸時代、この川筋には石狩十三場所のうちシママップ（島松）場所が置かれたが、 Ipet　の河口も好漁場であった。しかし、和人の酷い仕打ちにより住民は絶えてしまいました。この河口の向かいのシノツ河口には和人の番屋がありましたが、化け物が出るため和人は退去しました。アイヌの怨念がこの地に凝って和人の役人や商人を恨んでいるのだろうと、アイヌ達は松浦武四郎氏に説明したそうです。

Lesson51

Kampinuye 51（Sinep ikasma wampe erehot）神への祈り言葉(2)

カンピヌイエ　シネプ イカシマ ワンペ エレホッ

アイヌの宗教儀礼の中で現在最も日本中で知られているのはクマ送りの儀礼でしょう。アイヌ語では　iomante　と言いますが、これは　i-omante（あれ→神・を送る）と分解できます。つまり、動物の肉を背負い毛皮を着て人間界に遊んでいた神の魂を、本来いるべき天の神の国に送り返すと言う訳です。動物神は自分の国に帰りたいと心の良い人を選んで客となり、それを迎えた、つまり殺した人は祈りやイナウ、供物を捧げその魂をもてなし、神はお礼に肉や毛皮を人に与え、イナウや供物を持って天に帰ると、他の神々を招いて供物の酒や食料品を振る舞い、人間界の出来事を語ったりしながら神としての位を上げていくのです。そしてまた人間界に行き神の国へ戻る場合には、自分を大切にしてくれた人やその子孫の所を選ぶのです。

このように送られる動物は色々いますが、石狩川筋では kimunkamuy「ヒグマの神」と　kotankorkamuy「シマフクロウの神」が特に　pasekamuy「尊い神」とされて、とても丁寧に送られます。特にクマ送りは個々の家で近隣の人を招き普通に執り行われていました。このような尊い儀礼について若輩者の私が語るのも憚られます。今回は川村カ子トアイヌ記念館館長である川村兼一氏に色々とお話を伺いたいと思います。氏は旭川のみならず北海道各地の儀礼に参列し、また自身も十数回にわたりクマ送りを主催してきた経験豊かな人物です。

川村カ子トアイヌ記念館 提供

イオマンテの式次第

（一日目）　iomanteetokoyki　イオマンテ前夜祭

① inawke　イナウを削る
② eperaykar　花矢を作る
③ iutawpopo　tura　sito　uta　物搗き歌を歌いながら団子用の穀物を搗く
④ epersikekar　祭具と供物の準備をする
⑤ apehucikamuynomi　火の神に祈る
⑥ eper　sito　an=ere　仔グマに団子を饗する
⑦ iku　酒宴をはる

（二日目）　iomante　イオマンテ本祭

（屋内）
① apehucikamuynomi　火の神に祈る
② cisekorkamuynomi　家の神に祈る
（屋外）
③ kamuynomi　（幣の前で）神に祈る
④ tuskotnikamuynomi　結び木の神に祈る
⑤ eper　sito　an=ere　仔グマに団子を饗する
⑥ epernomi　仔グマに祈る
⑦ eperaynomi　仔グマに捧げる花矢祈りをする（雄は左、雌は右より２本贈る）
⑧ kantokorkamuynomi　天を司る神に祈る
⑨ kamuyaynomi　神への花矢祈りをする（天に花矢を放ち贈る）
⑩ kamuy　tapkar , okkayo　utar　ereray　ikore ,　クマが舞い、男性はクマの性別年齢に定められた数の
menoko　utar　upopo　花矢を贈り、女性は歌と踊りを踊る
⑪ inosoreaycotca　仕留め矢を射当てる
⑫ irekutnumpa　仔グマの首を（締め木で）締める
⑬ kamuynusa　kotcake　ta　sopkikar=an　wa　otta　祭壇の前に座を設えてそこに
sumawne　eper　an=are　wa　pirka　ipe　an=kopuni　仔グマの遺体を祀り饗応する
⑭ ninumcari , ukotusetaye　クルミ撒き、綱引きをする
⑮ kimunkamuynomi　クマ神に祈る
⑯ uenewsar　歌や踊りを祭りの場に集う神々に披露し、共に楽しむ
⑰ kamuynomi　（解体に先立ち）神に祈る
⑱ iri　解体をする
⑲ ikokamahupte　神を屋内に迎える
（屋内）
⑳ apehucikamuynomi　火の神に祈る
㉑ iku , uenewsar　酒宴をはる、歓談、歌や踊りを楽しむ

（三日目）　iomantemaraptoopuni　後日祭

（屋内）
① apehucikamuynomi　火の神に祈る
② unmemke　クマ神の頭部の皮を剥ぎ、脳を取り出し、飾り付けをする
（屋外）
③ epersapaopuni　クマの頭骨を祀る
④ okuyukkamuynomi　クマ神に祈る
（屋内）
⑤ uenewsar　口承文芸や歌、踊りをして共に楽しむ
（この時、口承文芸は面白くなる所で中断する。神は続きを聞きたくてまた直ぐにやって来る）

クマ神への祈詞

式次第にあるように三日にわたって様々な神々へ様々な祈りが捧げられます。その全てを紹介できませんので、その中で砂沢ドアカンノ翁による　epernomi　を紹介します。

Ku=kor　pon　eper
クコロ　ポン　エペレ　わが仔グマよ
tane　anakne
タネ　アナクネ　今は
kamuy　kar　puri
カムィカラプリ　神の作りし習い
ekasi　kar　puri
エカシカラプリ　父祖の作りし習い
iki　wakusu
イキ　ワクス　それが故に
nusaso　ka　ta
ヌサソ　カタ　幣座の前に
e=koitapkar
エコイタプカラ　お前は舞い
e=kor　a　tapkar
エコラ　タプカラ　お前の舞った舞いが
pirka　yakun
ピリカ　ヤクン　良いならば
kamuy　enewsar
カムィ　エネウサラ　神がそれを楽しみ

atanan　aynu
アタナン　アィヌ　つまらぬ人間の
pirkanewsar
ピリカネウサラ　良き楽しみ
ki　nankor .
キ　ナンコロ　となるでしょう。
Aynu　hura
アィヌフラ　人間の臭い
sak　kunine
サク　クニネ　がしないように
takusa　ani
タクサ　アニ　清め草もて
kasi　ci-kik
カシチキク　祓い清め
eci=ekarkar=an　na .
エチエカラカランナ　致しますよ
Ratci-sinot　ki　wa　en=kore .
ラッチシノッ　キ　ワ　エンコレ　穏やかな遊びをして下さい

（「上川アイヌ熊祭り」、倉光秀明、アイヌ祭祀研究会、昭和28年、p. 54）

Lesson51

Kampinuye 51（Sinep ikasma wampe erehot）神への祈り言葉(2)

カンピヌイエ　シネプ イカシマ ワンペ エレホッ

アイヌの宗教儀礼の中で現在最も日本中で知られているのはクマ送りの儀礼でしょう。アイヌ語では　iomante　と言いますが、これは　i-omante（あれ→神・を送る）と分解できます。つまり、動物の肉を背負い毛皮を着て人間界に遊んでいた神の魂を、本来いるべき天の神の国に送り返すと言う訳です。動物神は自分の国に帰りたいと心の良い人を選んで客となり、それを迎えた、つまり殺した人は祈りやイナウ、供物を捧げその魂をもてなし、神はお礼に肉や毛皮を人に与え、イナウや供物を持って天に帰ると、他の神々を招いて供物の酒や食料品を振る舞い、人間界の出来事を語ったりしながら神としての位を上げていくのです。そしてまた人間界に行き神の国へ戻る場合には、自分を大切にしてくれた人やその子孫の所を選ぶのです。

このように送られる動物は色々いますが、石狩川筋では kimunkamuy「ヒグマの神」と　kotankorkamuy「シマフクロウの神」が特に　pasekamuy「尊い神」とされて、とても丁寧に送られます。特にクマ送りは個々の家で近隣の人を招き普通に執り行われていました。このような尊い儀礼について若輩者の私が語るのも憚られます。今回は川村カ子トアイヌ記念館館長である川村兼一氏に色々とお話を伺いたいと思います。氏は旭川のみならず北海道各地の儀礼に参列し、また自身も十数回にわたりクマ送りを主催してきた経験豊かな人物です。

川村カ子トアイヌ記念館 提供

イオマンテの式次第

（一日目）　iomanteetokoyki　イオマンテ前夜祭

① inawke　イナウを削る
② eperaykar　花矢を作る
③ iutawpopo　tura　sito　uta　物搗き歌を歌いながら団子用の穀物を搗く
④ epersikekar　祭具と供物の準備をする
⑤ apehucikamuynomi　火の神に祈る
⑥ eper　sito　an=ere　仔グマに団子を饗する
⑦ iku　酒宴をはる

（二日目）　iomante　イオマンテ本祭

（屋内）
① apehucikamuynomi　火の神に祈る
② cisekorkamuynomi　家の神に祈る
（屋外）
③ kamuynomi　（幣の前で）神に祈る
④ tuskotnikamuynomi　結び木の神に祈る
⑤ eper　sito　an=ere　仔グマに団子を饗する
⑥ epernomi　仔グマに祈る
⑦ eperaynomi　仔グマに捧げる花矢祈りをする（雄は左、雌は右より２本贈る）
⑧ kantokorkamuynomi　天を司る神に祈る
⑨ kamuyaynomi　神への花矢祈りをする（天に花矢を放ち贈る）
⑩ kamuy　tapkar , okkayo　utar　ereray　ikore ,　クマが舞い、男性はクマの性別年齢に定められた数の
menoko　utar　upopo　花矢を贈り、女性は歌と踊りを踊る
⑪ inosoreaycotca　仕留め矢を射当てる
⑫ irekutnumpa　仔グマの首を（締め木で）締める
⑬ kamuynusa　kotcake　ta　sopkikar=an　wa　otta　祭壇の前に座を設えてそこに
sumawne　eper　an=are　wa　pirka　ipe　an=kopuni　仔グマの遺体を祀り饗応する
⑭ ninumcari , ukotusetaye　クルミ撒き、綱引きをする
⑮ kimunkamuynomi　クマ神に祈る
⑯ uenewsar　歌や踊りを祭りの場に集う神々に披露し、共に楽しむ
⑰ kamuynomi　（解体に先立ち）神に祈る
⑱ iri　解体をする
⑲ ikokamahupte　神を屋内に迎える
（屋内）
⑳ apehucikamuynomi　火の神に祈る
㉑ iku , uenewsar　酒宴をはる、歓談、歌や踊りを楽しむ

（三日目）　iomantemaraptoopuni　後日祭

（屋内）
① apehucikamuynomi　火の神に祈る
② unmemke　クマ神の頭部の皮を剥ぎ、脳を取り出し、飾り付けをする
（屋外）
③ epersapaopuni　クマの頭骨を祀る
④ okuyukkamuynomi　クマ神に祈る
（屋内）
⑤ uenewsar　口承文芸や歌、踊りをして共に楽しむ
（この時、口承文芸は面白くなる所で中断する。神は続きを聞きたくてまた直ぐにやって来る）

クマ神への祈詞

式次第にあるように三日にわたって様々な神々へ様々な祈りが捧げられます。その全てを紹介できませんので、その中で砂沢ドアカンノ翁による　epernomi　を紹介します。

Ku=kor　pon　eper
クコロ　ポン　エペレ　わが仔グマよ
tane　anakne
タネ　アナクネ　今は
kamuy　kar　puri
カムィカラプリ　神の作りし習い
ekasi　kar　puri
エカシカラプリ　父祖の作りし習い
iki　wakusu
イキ　ワクス　それが故に
nusaso　ka　ta
ヌサソ　カタ　幣座の前に
e=koitapkar
エコイタプカラ　お前は舞い
e=kor　a　tapkar
エコラ　タプカラ　お前の舞った舞いが
pirka　yakun
ピリカ　ヤクン　良いならば
kamuy　enewsar
カムィ　エネウサラ　神がそれを楽しみ

atanan　aynu
アタナン　アィヌ　つまらぬ人間の
pirkanewsar
ピリカネウサラ　良き楽しみ
ki　nankor .
キ　ナンコロ　となるでしょう。
Aynu　hura
アィヌフラ　人間の臭い
sak　kunine
サク　クニネ　がしないように
takusa　ani
タクサ　アニ　清め草もて
kasi　ci-kik
カシチキク　祓い清め
eci=ekarkar=an　na .
エチエカラカランナ　致しますよ
Ratci-sinot　ki　wa　en=kore .
ラッチシノッ　キ　ワ　エンコレ　穏やかな遊びをして下さい

（「上川アイヌ熊祭り」、倉光秀明、アイヌ祭祀研究会、昭和28年、p. 54）

Lesson52

Kampinuye 52（Tup ikasma wampe erehot）接頭辞、接尾辞と簡単な造語法

カンピヌイエ　　ドプ　イカシマ　ワンペ　エレホッ

1．覚えておきたい接頭辞

1.「頭」と「尻」

he-tuku（頭・を突き出す）　→　hetuku「（太陽が）昇る」
ho-puni（尻・を持ち上げる）　→　hopuni「立ち上がる」

上の例のように　he　は「頭」、「顔」、ho　は「尻」、「性器」などの意味で動詞に接頭し、その動詞が取り得る項の数を一つ減らします。それに対し

e-tuk（〜の頭・出る）　→　etuk　「（植物が）生える」
o-poso（〜の尻・を通り抜ける）→　oposo「〜を潜り抜ける」

のように　e　は「〜の頭」、「〜の顔」、o　は「〜の尻」、「〜の性器」などの意味で、動詞に接頭しても項の数は変わりません。この様に　he、ho　と　e、o　には意味の違いがあるのですが、子音　h　がよく脱落する石狩方言では　hetuku　が　etuku、hopuni　が　opuni　と発音されるため、この違いが分かりにくい事も多いのです。

尚、eharkisone「左座に、左に」などの様に①「e　あるいは　o　＋（場所）名詞＋ne」、ekimun「山に」、okimun「山から」などの様に②「e　あるいは　o　＋（場所）名詞＋un」、emakasi「山手に」、orikasi「上から」などの様に③「e　あるいは　o　＋場所名詞、位置名詞＋asi」の形や④ epera「川上に」、opera「川上から」の様に方向を示す副詞が形成されます。この中③と④に関しては他方言でそれぞれ　hemakasi、horikasi、hepera、hopera　などとなるのですが、石狩方言では絶対その様に発音されませんので、表記法は先に挙げたようになりますから、注意して下さい

2．i　について

i　は動詞に接頭し、その動詞が取り得る項を一つ減らすのですが、形は同じでもその由来や意味は様々です。

① i-rayke（人・を殺す）　→　irayke「人殺しをする」
この　i　は　「特定しない人一般」を意味し、同じ意味の人称接辞　an　の目的格に由来します。この意味では
un-nospa（人・を追う）　→　unnospa「人を追いかける」
の様に　un　も用いられます。

② i-ku（あれ→酒・を飲む）→　iku「酒を飲む」
慣用によって互いに了解できる何かを指して「あれ」の意味で用いられます。これは
i-kema（あれ→神・の足）　→　ikema「イケマの根」
の様に名詞と共に用いられる事があります。

③ i-hok（物・を買う）　→　ihok「買物をする」

④ i-ramu（物事・を考える）→　iramu「考える」
③、④は②の意味が忘却されるなどして一般化され、漠然とした「物」や「事」の意味になったものと考えられます。この意味では②とは異なり名詞と用いられる事はありません。

3.「自分」と「互い」

yay　と　si　は動詞に接頭して項の数を一つ減らします。両方とも「自分」と訳されますが、佐藤知己氏によれば　yay　は自分が手を下して直接的に自分にある動作を行う「直接的再帰接辞」、si　は自分以外の何者かの手により間接的に自分にある動作を行わせる「間接的再帰接辞」だと言います（注１）。これにより同じ動詞に接頭しても

① yay-wente（自分・を駄目にする）→　yaywente「自滅する」、「落ちぶれる」

② si-wente（自分・を駄目にする）→　siwente「生まれつき足が遅い」

の様に意味の違いを生じます。つまり、①は自分の行いによって自滅したり、落ちぶれたりするのに対し、②は自分の行いによらず足が遅い訳です（注２）。

u　も動詞に接頭して項の数を一つ減らします。これは
u-koyki（互い・に喧嘩する）　→　ukoyki「喧嘩し合う」
の様に「互い」の意味で用いられます。

（注１）「アイヌ語千歳方言の再帰接頭辞yay-とsi-について」佐藤知己　2007年
（注２）現在では足が遅くても運動会で悔しい思いをするくらいですが、かつては毒矢を受けて怒ったクマから逃げるためにも足の速さは生死を分けました。

4.充当接頭辞　e　、o　、ko　について

充当接頭辞は動詞に接頭して項の数を一つ増やします。その意味は次の通りです。

① e
1）（目的）〜について、〜を、〜のために
e-kiroroan（〜を・嬉しいと思う）　→　ekiroroan「〜を嬉しいと思う」
e-reskakar（〜のために・〜を育てる）→　ereskakar「〜の許婚として〜を育てる」

2）（原因・手段）〜によって、〜で
e-rekor（〜で・名を持つ）　→　erekor「〜で名が付く」（原因）
e-sinot（〜で・遊ぶ）　→　esinot「〜で遊ぶ」　（手段）

3）（同伴）〜と一緒に、〜と
e-tusmak（〜と・競争する）　→　etusmak「〜と競争する」

4）（運動の方向、到着点・位置関係）〜へ、〜で、〜に
e-oman（〜へ・行く）　→　eoman「〜へ行く」（方向）
e-an（〜に・いる、ある）　→　ean「〜にいる・ある」（位置）

② o
1）（手段）〜によって、〜で（稀にしか現れない）
o-ipere（〜で・〜に食事をさせる）　→　oipere「〜で〜に食事をさせる」
2）（運動の起点）〜から
o-ek（〜から・来る）　→　oek「〜から来る」
3）（運動の方向、到達点・位置関係）〜へ、〜で、〜に
o-oman（〜へ・行く）　→　ooman「〜へ行く」（方向）
o-sinot（〜で・遊ぶ）　→　osinot「〜で遊ぶ」（位置）

③ ko
1）（目的）〜に対し、〜に、〜を、〜から
ko-sikkeruru（〜に対し・睨む）　→　kosikkeruru「〜を睨む」
ko-ikka（〜に対し・盗みをはたらく）→　koikka　「〜から盗む」
2）（手段）〜で（稀にしか現れない）
ko-ranke（〜で・〜を落とす）　→　koranke「〜で〜を落とす」
3）（同伴・付随）〜と一緒に、〜と
ko-hotke（〜と一緒に・横になる）→　kohotke「〜と寝る」
ko-e（〜と一緒に・〜を食べる）　→　koe「〜と一緒に〜を食べる」
4）（運動の方向・到達点）
ko-kira（〜へ・逃げる）　→　kokira「〜へ逃げる」

尚、旭川の親子アイヌ語教室などで今後造語を行う場合には、既存の語の派生を除き、①　e　は１）、２）（特に原因）、４）（位置のみ）、②　o　は　１）、２）、③　ko　は１）、３）、４）の意味で用いていきます。

2. 覚えておきたい接尾辞

1. 使役接尾辞　re 、te 、e

動詞の語尾に接尾して基本的に「〜させる」という意味の使役形を形成し、動詞の項を一つ増やします。これは

① ipe-re（食事する・させる）　→　ipere　「〜に食事をさせる」
② kasuy-re（〜を手伝う・させる）→　kasuyre「〜に〜を手伝わせる」
③ oman-te（行く・させる）　→　omante「〜を行かせる」、「〜を送る」
④ tuy-te（切れ落ちる・させる）　→　tuyte　「〜を落とす」
⑤ kor-e（〜を持つ・させる）　→　kore　「〜に〜を与える」
⑥ kot-e（〜に結び付く・させる）→　kote　「〜に〜を結びつける」

の様に使われます。つまり①母音で終わる動詞と②子音　w 、y　で終わる動詞は　re　、③（　r 、w　を除く）子音で終わる動詞と④子音　y　で終わる動詞の一部は　te　、⑤子音　r　で終わる動詞と⑥他動詞　kot　は　e　がそれぞれ用いられます。

2. 使役接尾辞　ka

自動詞に接尾して使役形他動詞を形成し、動詞の項の数を一つ増やします。方言によって使用の頻度にばらつきがありますが、石狩方言では多用され、

tanne-ka（長くなる・させる）　→　tanneka「〜を伸ばす」
tanne-re（長くなる・させる）　→　tannere「〜を伸ばす」

の様に１．で説明したものと併存するものがあります。この二語に意味の違いはありません。